



## ● 「まちの国際化」に向けてCIRが大活躍！

### 静岡県袋井市総務部国際課

#### まちの国際化スタート

2015年3月、袋井市に立地する静岡県小笠山総合運動公園内の「エコパスタジアム」が、ラグビーワールドカップ2019の試合会場に決定しました。多くの外国人が訪れるラグビーワールドカップが当市で開催されることは、市民が世界に目を向け、関心を持つ絶好の機会となります。

このため、2016年度から国際交流員（CIR）を任用し、グローバル化に対応できる人づくり・多様性を活かした活力ある地域づくり・外国人が訪れたい魅力的なまちづくりを目指す「まちの国際化」をスタートしました。

#### 子どもに大人気な CIR

当市では、幼小中一貫教育を通して、小中学生の英語力向上に取り組んでいます。この一環として、市内の保育園・幼稚園・こども園をCIRが訪れ、年長児に対し、歌や遊びを通して身近な英語に触れる機会とする「ハローイングリッシュ」を進めています。



「ハローイングリッシュ」で園児と英語で交流する CIR

ハローイングリッシュでは、各園の希望に応じた交流プログラムをCIRが組み立て、楽しく交流することにより、最初は戸惑っていた子どもたちも、積極的に英単語を話したり、たくさん質問したりするようになるので、

幼児期から英語に慣れ親しむ取り組みとして、先生方からも好評をいただいています。

#### 市民との交流機会の創出

「まちの国際化」を進めるためには、CIRが多くの市民と関わるのが重要になることから、市民との交流機会をCIR自ら企画・実施しています。

日本人市民と外国人市民が小グループになり、お菓子を食べながら気軽に交流する「異文化カフェ」をはじめ、お花見やお茶席体験、市内観光地巡り、母国の料理教室など、日本人と外国人が楽しく交流できるさまざまなイベントを開催してきました。コロナ禍においても、オンラインでの異文化カフェを開催するなど、創意工夫を重ねた交流事業に挑戦しています。



CIRが企画した「異文化カフェ」の様子

また、コミュニティセンターの文化活動や、放課後児童クラブなどを訪問し、母国の紹介や英語のゲームなどを通して、外国の文化や英語に親しむ「出前講座」も行っています。最近では、子育て支援センターや図書館などで、親子向けに英語の絵本の読み聞かせなどを行ったほか、クリスマスには、「サンタクロースの衣装を着て、子どもたちにプレゼントを渡してほしい」などの要望もいただきました。CIRは、さまざまな年齢層に合わせた



アメリカとアイルランドのお菓子（スコーン）づくり教室の様子

企画を作り上げ、参加者と楽しみながら交流事業を行っています。

## アイルランドとの新たな交流

ラグビーワールドカップ2019において、当市のエコパスタジアムで、日本対アイルランド戦が行われたことや、当市が東京2020オリンピックにおけるアイルランド選手団のホストタウンとなったことから、近年、アイルランドと良好な関係を築いています。この新しい交流に、CIRが大きな役割を担っています。

アイルランド最大のイベント「セント・パトリックス・デー」を袋井市でも行いたいというCIRの提案をきっかけに、アイルランド大使館をはじめ、さまざまな団体とのつながりができ、「アイルランド・フェスティバル in



「アイルランド・フェスティバル in ふくろい」にて、駐日アイルランド大使と袋井市長とともに（CIRは右から3人目）。



アイルランド訪問時に市長の通訳員として同行

「ふくろい」を開催することができました。このイベントを通して、市民に、食べ物や音楽、ダンス、スポーツなど、魅力的なアイルランド文化を身近に感じてもらう機会となりました。

その他にも、オリンピック事前キャンプに伴うアイルランドオリンピック委員会の視察や、競技者のトレーニング、交流事業などにおいても、通訳として両国を結び役割を果たしてくれています。

今後、アイルランドとの交流をさらに発展させていくためには、CIRの力は欠かせません。

## おわりに

当市では、近年、外国人市民の増加が続いており、

諸外国との交流とともに、外国人市民との共生も重要な課題となっています。共生を図るためには、日本人が、外国人に対しても臆することなく積極的にコミュニケーションを図る意識や、文化の違いを認め合うことが重要であると考えています。

CIRは高い言語能力を有している人材であり、市民はCIRと交流することで、自然に外国の文化・言語を学び、相互理解を深めることができます。

これからも多くの市民と関わり、その能力を発揮していただけることを期待しています。